



第 672 号
発行人●豊丘村公民館 館長 原 国人
編集人●長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会
0265-35-9066
印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村
(2月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,357人
女 3,444人
総人口 6,801人
世帯数 2,129戸

昨年暮れ、河野、地蔵道の越野恒久さん（八十六才）から豊丘三校の校長先生と村の図書館に対して、自らが執筆、出版された「駅伝雑記 青春を駆け抜けた選手たち」飯田下伊那チーム草創期の10年」というタイトルの本、四十冊を寄贈していただいた。

越野さんは昭和二十七年の第一回県縦断駅伝競争の下伊那チーム（現飯田下伊那）の優勝メンバーで、以

日本が大東亜戦争（当時）に敗れて以後、一番不自由であったのが食料の不

豊丘が生んだ 名駅伝ランナー半生記

学校・図書館に寄贈される



また補助運動にも工夫し



越野さんから小中学校の校長先生に手渡された

残り少ない日数、一日一日を大切にしたいものです。
（熊谷由紀乃）

1部 公開保育「体育あそび教室」

2部 幼少児のための健康教育シンポジウム

「自律(自立)的な子どもを育てるために」

とよおか四季大学大学院の公開講座が一月二十七日に、ゆめあるての大ホールで開催されました。

第一部は東京理科大学名誉教授の丸山克俊先生による「体育あそび教室」で、先生と園児が一緒になって体育あそびを楽しみました。また、第二部の幼児のための健康教育シンポジウムでは、丸山克俊先生を座長に、四人の先生方より「自律(自立)的な子どもを育てるために」と題した貴重なお話を聞くことができました。

対するは保育園のワーク！年長さんです。始めは不安気な顔が、丸山先生の気合の入ったご指導にみるみる引き込まれていきました。逃げ回っていた子ども達が最後には力を合わせてオオカミを倒したのです。

このあそびの中で
☆怖くても勇気を出す姿
☆友達と力を合わせる姿
☆友達を応援する姿
☆戦いの相手にも優しい気持ちをもせる姿 など、たくさん育ちの姿から、子ども達の心の美しさがひととき輝いて見えました。

このような遊びは、物事の良し悪し、順番や約束を守る、自分達でトラブルを解決するという精神を育てるために不可欠であると教えていただきました。

運動あそびが人の心を育てることを実感できた公開保育でした。丸山先生、あ

基調講演を聞いて 苦あれば...

中央保育園保護者会長
池野 誠

今回の話を聞いて、自律とは何かと考えた時、子ども達にとって楽しい事は何かを考えてあげることが必要と感じました。

楽しいという漢字は「ラク」とも読めます。職場や日常生活でもラクをしてしまおうと必ず問題が起きます。「ラク」して問題を起こすより、楽しく過ごすには幼児期の運動や遊びが大事だと知りませんでした。

運動をすれば上手い下手、遊びの中にも優劣が付き

ます。子ども達がそうした経験をすることで、自分が何が上手く出来るんだろうと考える事が必要だと思いました。

いっぱい考える事によって、子ども達が大きくなって、苦しい事などにぶつかつた時、「ラク」をせずに楽しくするために幼児期の運動や遊びが大事だという話を聞くことができ、とても良かったです。

段丘

二月と言えば節分、バレンタイン、色々な行事がある月だと感じます。ただ私は二月になると一段と寂しさや虚しさを感じる月でもあります。それは、三月という別れの時期があと一歩と近づいてくるからです。三月には卒業など年度納めということで、四月の新年度にむかつて変動が行なわれる月でもあります。

最近聞いた曲のなかで、昔ヒットした卒業ソングに「卒業とは出口ではなく入口だろう」という歌詞がありました。別れについて前向き表現していると感じました。別れに対して、ついつい思い出に浸りながら、寂しさ悲しさ、この先の不安を感じる半面、この先に對しての希望も出てくる。希望という前向きな感情で「別れ」をしたいものです。ただそれは、その瞬間思わなくても、後づけで意味がついてくることもあり、人それぞれではないかと感じます。

残された者は残された者なりに感じることもあると思います。しかし、残った者は前向きに見送りたい。それは、旅立つ人が一番何か感じているものがあるのではないかと思うのです。

残り少ない日数、一日一日を大切にしたいものです。
（熊谷由紀乃）

リニアの声 第8回

成人式を迎えた新成人2人の声です

よ現実として進み出しました。リニアが通ったら東京も名古屋も近くなり都会と田舎の格差も縮まり、生活も便利になると思います。けれど、変わるのとはそれだけ？

市町村の活性化に 神稲出身 女性

三ヶ月ほど前、実家に帰り、きのこりに山へ行きました。山には今までなかった杭がところどころに打っており、親に聞くと、リニア関係で建つ鉄塔や電線の目印とのこと。その瞬間、今まで他人事だったリニアが、一気に身近に感じられ、家の山が形を変えることに不安を感じました。当たり前のことだけれど、リニアが通るためには様々な工事が必要になり、それに伴って犠牲になるものが間違いなくあると思います。小さい頃から変わらず私達を包んでくれた自然が、リニアと引き換えに姿を変える。それでもリニアが通ってよ

飯田にリニアがくるということは、市町村全体の活性化に繋がると思っています。今は普通に歩いていても明るさが無く閉じてしまっている商店ばかりあると思います。そればかりか、今ではお店を利用する人も少ないと感じます。ですからリニアは村おこしができるいい機会になるのではないかと思います。

正直リニアがくることに反対という意見もあると思いますが、リニアであってほしいと願うばかりです。

「リニアがこの伊那谷を通る」もう何年も前から村長さんがあいさつの度に話してくれたことが、いよいよ

新成人もリニアに期待と不安



新成人もリニアに期待と不安

とよか四季大学大学院 「テニール」 初級公認指導者 認定講習会」 受講者募集

テニールは、投手のいないベースボール型スポーツで、アジア諸国では加速度的に普及しています。四時間の講義、実技を受講し、認定試験に合格すると「認定証」が授与され、中級指導者の受講資格を取得することできます。野球・ソフトボール愛好者の皆様是非、チャレンジしてください。

【日時】三月十二日（日）午前九時～

【場所】交流学習センター・村民グラウンド

【問合せ】豊丘村教育委員会 〆三五一九〇六六

子どもの教育を応援するついでに

子どもが変わる、私も変わる。そして地域も変わる。……昨年が始まったコミュニティスクール（CS）の一年間を検証する意味から、お互いのボランティア活動の交流を行う「子どもの教育を応援する村民のついでに」が一月二十五日、七十名余の方々が参加して、ゆめあ

数は一時間で延べ六五五回になりました。

この日には小学校の教室見守り活動をはじめ、イネの栽培、花壇の整備、部活動やクラブ活動、読み聞かせ活動の報告に加え、民生児童委員、更生保護女性会、警察ボランティアの方々が

できたと思われま。それぞれの報告のあと、南信教育事務所の本村栄次先生から講評があり、「学校で子どもたちと関わることで、自分が元気づけられたとか、新しい見方が出来たという報告があったが、私たち大人も子どもたちと共に成長していくことができる意味で、CSは生涯学習の点からも大切な取り組みである。豊丘のCSは学校を応援するという目的がブレていない。各地のCSは

また「現在、新しい国の教育の基準（学習指導要領）づくりが準備されているが、そのキーワードの一つに『社会に開かれた教育課程』があり、教育は学校だけでなく、社会の教育力を取り込んでいく、或いは学校が社会に飛び出

現在、学校支援ボランティアとして活動されている村民の皆さんは三十二の活動に百名を数え、その活動回

分たちの活動の他にどのような支援活動があるか、自分たちの活動が子どもたちにどのような効果をもたらしているか等を知ることが

学校毎に設置されているが、オール豊丘の観点で一つのCSの仕組みをつくったことは画期的だ」とのお話がありました。

また「現在、新しい国の教育の基準（学習指導要領）づくりが準備されているが、そのキーワードの一つに『社会に開かれた教育課程』があり、教育は学校だけでなく、社会の教育力を取り込んでいく、或いは学校が社会に飛び出



ボランティア活動の様子を発表

シリーズ「元氣な高齢者」③ 多忙さと共有した充実人生

伊藤 光男さん
九十歳
南市場在住



大正十五年に、現在地に近い同地区の村澤家で、五人きょうだいの次男として生まれた。水田、養蚕など農業を大規模に営んでいたが、当時の国策として米、野菜などを土地に応じて供出するよう割り当てられており、それに対応するため父親は懸命に働いた。小学

校入学前に、銀杏拾いに夢中になり、かぶれて目が見え難くなり慌てて医者へ駆け込んだこともあった。しかし父は壮年期の無理が祟り、小一の時に亡くなった。戦況は厳しさを増し、小六の時には教師が兵隊に駆り出され、先生は唐澤幸恵さんにお話を聞きました。

木目込人形は桐のオガコで固めたボディにヤスリをかけ、溝をつけます。溝に布をのりで目打ちして作り

ます。全国にはたくさん支部があり、唐澤幸恵さんが所属しているのは、清水総支部、晩朋会といひます。会では、二年に一回伊那のかんてんばホールで展示会を行っています。

平成十四年にはグループ作品が、また平成二十二年には唐澤幸恵さんの作品が、そして平成二十八年には、林原の原妙子さんの作品が、最高賞である総裁賞をいただきました。

会では、皆が仲良く活動するという「和」を大切に

して製作を楽しんでいるそうです。

文責 原 明美

公民館登録グループ活動紹介 第4回

木目込人形の会 「和」を大切に

木目込人形の会は、木門の先生御自宅を含め四ヶ所で行われています。生徒は全員で二十五名程です。会

は平成十年から始まり、二十年近くになります。どの会も月二回活動しています。

文責 原 明美



とよおかまつり作品展示会場で 唐澤幸恵さん(左) 原妙子さん(右)

り出されたため、急遽教師先生が全校の百六十人を教えるという状況に陥り、満足な勉強は不可能であった。農学校を卒業、更に青年学校で五年間過ごした後、短期間ではあったが平岡タムの工事現場も経験した。その後家に戻ったが、やがて徴兵検査を受けて松本の部隊に赴いた。松本での訓練の後、東京へ移動したが、そこで終戦となった。

夫が公務に多忙なため、留守勝ちな家を守る役目を担っていた奥さんは非常に苦勞され、過勞もあり十年前に八十歳で亡くなった。同年生十五人はまとまりが良く、米寿までは毎年三回は懇親会を開くほどで、その中のリーダー的存在。九十歳を超えた現在は、足腰に痛みを感じるが入院歴は無く、畑に出るのを日課としている。三代四人暮らしの一家、近くに住む曾孫が毎日訪れてくれるのを楽しみにしている。多忙な中での充実した人生に健康長寿の源を見た思いであった。

文責 桐崎 長一
宮下 正弘



こちら資料館 ⑪ 旧河野区民会館にあった 竹村家御駕籠

ただ今「ゆめあるて」で展示中の「竹村家御駕籠」についてです。(写真下)

この駕籠は、建て替えのため昨年6月に取り壊された旧河野区民会館の玄関土間の天井に吊されていたものです。建物は高森へ転居された竹村進氏から昭和三十四年に河野区が購入したものでしたが、駕籠もそのまま区が受け継ぎました。

だいが傷みが進んでいますが、全体を畳表と御簾で覆い漆塗りの丸屋根をのせておきました。

また、背もたれ板の裏側に『京都松原馬?角御用乗物師 越前屋伊兵衛』の署名があり(写真上)わざわざ京都の専門家に注文して作らせた事が分かります。



作かもしれせん。
(資料館主任 唐澤武彦)

昨年十月中旬に、南保育園園長さんからタイムカプセルが出てきたと連絡がありました。保育園東側の道路拡張工事の際に三十三年ぶりに発見された様です。

これを機に、第三期南保育園卒園同級会・第二回成人式を行おうと計画しました。同級会を一月二日に行い南保育園に集合し、卒園二十五名(男十二人、女十三人)の内十人が出席し、年長さくら組の担任だった松島先生(現・仲宗根先生)も出席されました。タイムカプセルの中には似顔絵、カセットテープ、



と、経験出来たことを嬉しく思い出した。



思い出の品を手に記念撮影

毎年多くの参加者で賑わう第三分館恒例の餅つき大会が、一月二十九日の日曜日に「交流センターだいち」に於いて開催されました。この大会は第三分館の交流と、親子・家族のふれあいの場づくり、また一年間の健康を願って、新年会と併せて行なわれています。



べったんこ べったんこ おいしいおもちにな～れ

全国公民館報コンクール 館報「とよおか」が奨励賞

この度はコンクール受賞お目出度うございます。豊丘村の誕生から早くも六十年を過ぎ、延々と続いた公民館報は平成二十九年二月号で六七二号となります。

この間、村民の人達の協力と、編集に携わってこられた大勢の編集委員の方々の連携があつて、今回の受賞に繋がったのではないかと思います。本当にお目出度うございます。

現在は日々変わる出来事はラジオ・テレビ・インターネット等で情報を得たり保存することができるようになりました。

時代になりましたが、時の移り変わりを文章で残す事も大切な事と私は思います。現在、村政の動きを伝える広報「とよおか」や「豊丘村議会」などありますが、館報は違った意味での記録だと思っています。

長い間続けてこられた故・毛涯章平先生の「出会いこぼれ話」や「こちら資料館」「豊丘の自然」「元気な高齢者」などの連載もの、それと公民館の各種グループ活動や、活発な分館事業に参加される子供からお年寄りまでの元気な姿が紹介され本当に素晴らしい記録だと思っています。

若い人達が年を経て昔を振り返り、共に学び遊んだ姿や、祖父・両親との懐かしい時代を思い出せる物の一つに館報があると思います。

いま伴野区では、区民の皆さんに伴野地区の移り変わりを知らせようと「伴野区誌研究委員会」を立ち上げ各種書類の整理を行っており、豊丘村誕生以後の歴史を調べるのに、今までに発行された「館報縮刷版」が非常に役立つと思います。毎月の館報を保存されている方もあるかもしれませんが、思い出を振り返るのに便利な「館報縮刷版第五号」の発刊を切に希望します。



現在の柿外土トヨジ坂

第三分館長

上 沼 隆

つきたてのお餅を堪能 第三分館 餅つき大会

賑やかに餅つきが出来たところで、大根おろし、きなこ、あんこ、胡麻とまぶし大皿に並べると、それぞれが好みに合わせて自分たちの皿一杯に盛り、つきたての美味しいお餅を心行くまで堪能しました。席には

飲み物や、皿盛りお菓子、漬物が並び、取りよった餅と併せて賑やかに新年会のスタートとなりました。

新年会ではビンゴ大会を行い、日用雑貨から小さな子供向けのおもちゃまで幅広く用意された賞品が並ぶなか、それぞれが気に入った賞品を、参加者百五十名全員が手にしました。

食べ切れなかった餅はパックに詰めて持ち帰る家族も多く見られ、午後三時には大盛況の内に幕を閉じました。

館報編集委員 一同

奨励賞受賞に寄せて
小園 栗澤直人

私の子供のころでした。近所の叔母さんが柿外土へ用達しにかけた。そのころは道は細く、お宮の杜は暗く竹藪がおおいがぶさつて、屋間でも気持ちの悪いところでした。

つい帰りが遅くなって十時すぎ、トヨジ坂を上がつてくると道端の大きな横の木を、誰かがズイコン、ズイコンと伐っている。まさかこんな夜更けに伐るなん

(豊丘村民話集・第壹輯
昭和五十二年)より
文責 壬生雅穂

とよおか 100年前 『豊丘村民話集』より

と不思議に思い、そつと提灯の明かりをかざして見ると、なんと高い枝に何か黒いものがいたので吃驚仰天、一目散に逃げ帰った。

家の人に話したら、それは猪の仕業ずらといったので、翌朝行つてみたが木を伐つたあともなく、猪の仕業とわかった。そのころよく大勢の人が猪や狸に化かされた。

猪に化かされた話
片桐清美

～シリーズ～ 豊丘の自然

No.160

ホソミイトトンボ
（イトトンボ科）



原稿の締め切り日は、とつくに過ぎていくのに、なかなか書きたいことがまとまらない。この二カ月間、たつた三分の発表のために集中していて。テーマは「飯田・下伊那のトンボ相の今」。

「今」とは…。

この比較方法でいいのか。現地調査は十分か。

それより何より「自然」をどう取らえたらよいのか。ここに紹介したホソミイトトンボの産卵の写真を見ながら思い悩んでいる。

五十五年近く前のトンボ相と今のトンボ相は、かなりちがう。だとすれば、よく我々が使う、「自然を守らなければ」の自然は、どちらの自然なのだろうと。

どうも、今を記録しておくしか術はないような気がする。（山田 拓）

趣味びと③
描いた構想を「木彫り」で実現

北市場三 片桐秀夫さん (64才)



県展入選
幼女像

五十五歳の時、三十年以上勤めた会社を辞め第二の人生として次の会社に変わったが、自分の時間を持てるようになったのを機に、元々興味があった木工をやってみようと思ったのがきっかけである。家の近くの方に勧められ『大八車』のミニチュア版を製作したところ好評で、更に別の方の勧めで木彫りに挑戦し始めた。

作品の材料は山歩きして集めたり、近所の仲間に頂いたりした物が多い。山から重量物を一人で運び出す時、無理をして肩を痛めたこともある。今では家の多くの部屋が作業場同然と

なっているが、その主体となるプレハブは頂き物で、設置も仲間の支援で完成した。

作品の構想は、美術館での鑑賞や書物の閲覧から関くことが多く、時には木彫りの龍を見るために京都の美術館まで出向いたこともある。また野原を歩いて写真を撮るのはしばしばである。手元にある素材を基に新たな構想を練る時は時間を忘れるほどである。

作品づくりは仕事を終わりに帰宅してから時間や、休日のほとんどの時間を使っているが、大作品は完成までに半年かかることもある。



長野県工芸美術展会長賞受賞 野草（向かって右側）お孫さんと

昨年は高校時代の先輩に勧められ、人気の『かんでんばホール』で展示会を開催でき、大勢の人に作品を見て頂き感謝している。

最近腕試しを込めて長野県展に応募し彫刻部門で入選、更に長野県工芸美術

展では会長賞を得ることができ、これまでの努力が報われた気持ちで一杯である。家中が埃っぽいのを愚痴も言わず、作品づくりのため自由に時間を使わせてくれる奥さんに、また近所の仲間の人達に感謝している。

現在は先生と仰ぐ方に技術を見て頂き一層のレベルアップを図っており、今後もしながら作品づくりをしたいと思っている。

文責 桐崎 長一

夜間バレーボール大会



俳句 短歌

雪被りサンゴ水木の鮮やかに
師の一書机上に愛でし冬薔薇
冬帽の形見古りしも手放せず
どんど焼きあちこち火柱昇天す
初髪を切つて短かし兄の顔
駒目ざす鳥の列かな初御空
穢なき山里照す初日かな
冠雪のアルプスを褒め空を褒め
風越山を驚越えて来し初明り
寝積むや窓に銀翼天翔て
還暦を迎へし朝の初鏡
天龍川の風眩しみて初日の出
初湯して余生にみゆる仄明り

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
下平 玲子
三島 保子
三島 里子
木下 眞水
松岡 照子
宮下 公
宮下 純子
林 恵美子
丸山 時子
北原 昭子

短歌会 夢あるて

年明けて早くも咲かんスノードロップ降り積む雪にじつと耐えおり
石段を孫の手ひきて初詣で家族そろいて柏手をうつ
白鷺の群れをなしている天竜の流れおだやかに冬日さし入る
初孫を抱きおみきでお年とり節目の年と亡父の声聞く
冴え返る空飛ぶ鷺のシルエット塩見の山に初日の出づる
妻も吾も八十歳を越えてきて独りになる日を互いに触れず

大原真由美
筒井 恵子
松尾ヒサコ
松下 泰見
福澤貴美恵
富永 博道

親守詩長野県南信大会受賞作品

親守詩とは、子どもが「五七五」、親が「七七」で「感謝」と「親心」を表現する親子のキャッチボール短歌のことです。

- ▼中日新聞社賞
- （子） たくさんの あいをわけてね これからも（親） 仲良く過ごそう 和気あいあいと
- ▼信濃毎日新聞社賞
- （子） 怒られた 言い訳いしたら つのはえる（親） 良（いい）訳言ったら つの折れるかも
- ▼南信州新聞社賞
- （子） 大切に 親子のきずな わすれない（親） 手を離しても つなぐよこころ
- ▼関島水引店賞
- （子） なつやすみ パパとこうさく やりたいな（親） 夢中になるのは いつもパパ
- 豊丘北小学校五年 大島 凜桜
豊丘南小学校六年 長沼 康介
豊丘南小学校六年 木下 柚里
豊丘南小学校二年 三澤 葵心

八日会

冬畑を耕しくるる人ありて思わぬ事に感謝の心
苗を植え肥料をやりし曾孫の葱売れたる小銭に顔ほころばす
豌豆は土押しあげてびつしりと芽を出しており此の寒き朝を
この杖は吾の命を支えくるる大切な杖まくら辺におく
元朝の空の青さよアルプスの嶺よりいずる御来光拜す

寺元 和美
河原 梨花
吉沢 新子
松島 八重
紅 梅

あしたば短歌会

露天風呂仄かな明かり湯気の中老女は三人満たされた刻
テレビより流れる懐メロくちずさむ われにも香き青春ありき
年長の曾孫と遊ぶ絵合わせは記憶に負ける八十路のわれは
朝陽受け背に温もりをとじこめて里へ降りれば霧に包まる
若がえる暦のかずの幾度か花咲く新春に会うぞうれしき
娘と孫に弾かれ老いたるアップライト年増の猫の安き止まり木

大倉 知江
久保田 妙
壬生 千春
北澤 秀子
毛涯百合子
福澤 亀人

豊丘川柳クラブ豊柳会

▼課題「都」 北沢龍玄 選

住めば都子等の帰りを待つ夫婦 西元 峯子
都塵には馴染めず風邪を持ち帰る 小澤 凜
行くたびに新たな出会い古都の旅 林 桃子

▼課題「大」 北沢龍玄 選

大東京豊洲五輪も霧の中 福沢 勝美
アメリカが大風呂敷で国守る 久保ひろし
大変な時代生き抜く知恵を練り 桃沢 健介
軸吟…大海に漕ぎ出す孫の背中押す

▼自由吟 桃沢健介 選

新雪の松へ冬日の光射す 安田 喜子
この上ない婿孫集い搗いた餅 原 美風
軸吟…トランプを生んだ世界に危機の風

投稿 俳句

スギ花粉 春が来たかな ついくしゅん 中部三 鎌倉 美登里